

■南原繁 政治学者。エリート官僚の道を捨てて学者になり、＜敗戦＞直後に東大総長、発言が大きな影響を及ぼした。

なんばらしげる

帝国憲法発布1889＝ 香川県相生村で長男に生れた。代々組頭をつとめた名家であったが、父の代にはすっかり没落していた。

足尾鉋毒始・1891＝ 2歳：両親が離婚し、母と母方の祖父母に育てられる。母は浄土真宗の熱心な信者であった。

早くから、中国の古典などを学習する。

日清戦争始・1894＝ 5歳：

子規句歌革新1898＝ 9歳：高等小学校に進む。

日露戦争終・1905＝16歳：

韓国反日暴動1907＝18歳：上京して、第一高等学校に入学。校長は新渡戸稲造であった。

内村鑑三と出会い、海老名弾正の説教を聞きに行くなど、次第にキリスト教に傾斜。

明治天皇没・1912＝23歳：

第一次大戦始1914＝25歳：東京帝国大学を卒業し、高等文官試験に合格して、内務省に入る。

警保局勤務の後、

民本主義・1916＝27歳：富山県射水郡長に任命され、

全寮制の郡立学校建設を志し、文部省の反対を押し切って"農業公民学校"の名称で実現。

ベルギー条約・1919＝30歳：警保局に戻り、労働組合法案の作成を命じられたが、彼の案が問題になり、

官僚としてのエリートコースを歩んでいたにもかかわらず、

原敬首相暗殺1921＝32歳：内務省を退職、母校の政治学の助教授となり、就任と同時に、ヨーロッパに留学、

当地の重鎮といえる学者たちに接することができた。

とくにドイツからは、心のふるさとなるほどの影響を受けて、

護憲三派圧勝1924＝35歳：帰国。

治安維持法・1925＝36歳：教授に昇任し、主として政治学史を担任する。

金融恐慌・1927＝38歳：「カントに於ける国際政治の理念」、

共産党事件・1928＝39歳：「政治原理としての自由主義の考察」など、論文を次々と発表。

満州事変・1931＝42歳："価値の綜合"の哲学を構築し、国民的共同体の概念を定式化するという任務を自らに課し、

帝人疑獄事件1934＝45歳：

日中戦争始・1937＝48歳：「基督教の「神の国」とプラトンの国家理念」などを著し、

健保+総動員 1938＝49歳：現代の政治理想と日本精神」などの講演を行い、

こうして、学生時代から内村鑑三によってキリスト教の信仰に導かれ、ドイツ観念論の独創的研究を中心に

政治の哲学的研究を進め、それを通じて当時高まりつつあった国体という擬似宗教を批判し、

日米開戦・1941＝52歳：日米開戦には高揚した短歌。

・・・・・・1942＝53歳：その成果を大著「国家と宗教」にまとめた。

創価学会検挙1943＝54歳：

戦局が進むにつれ、論文が困難になり、盛んに和歌を詠むが、

敗戦・1945＝56歳：作歌を途絶した。*法学部長に選出され、田中耕太郎、我妻栄ら同志と終戦工作を試みる。敗戦後、総長に選ばれ、学内での演説は広く紹介されて、国民に大きな影響を与えて行く。

新憲法公布・1946＝57歳：GHQが米国教育使節団に協力すべき"日本教育家の委員会"の設置を指令し、その委員長になった。貴族院議員となって憲法審議に加わり、

新憲法施行・1947＝58歳：教育刷新委員会委員長となって教育改革に指導的役割を果たす。

三大事件・1949＝60歳：ワシントンで全面講和を主張し、

朝鮮戦争始・1950＝61歳：吉田茂首相に"曲学阿世の徒"と言われる。

独立回復・1951＝62歳：*6年つとめた東大総長を退職。

メデー事件・1952＝63歳：

美智子妃・1959＝70歳：「フィヒテの政治哲学」。

安保闘争・1960＝71歳：

タイタイ病始・1961＝72歳：

全国総合計画1962＝73歳：「政治理論史」。

大阪万博・1970＝81歳：日本学士院院長。

日中国交回復1972＝83歳：「南原繁著作集」(全10巻)を刊行。

角栄金脈辞任1974＝85歳：完結後、日本学士院院長在職のまま、没した。